

広島県

福山市

地域の多文化共生を 目指して



福山市生活相談課

市の概要

福山市は、広島県南東部、瀬戸内海国立公園のほぼ中央に位置しており、人口約四七万人、面積約五二八km²、広島市に次ぐ県内二番目の規模を持つ中核市です。

北は中国山地の山間部から、南は瀬戸内の島諸部に至る景観変化に富んだ、言わば日本の縮図のような都市です。

海外との交流は古代にさかのぼり、万葉の昔から潮待ちの港として栄えた鞆の浦や中世交易港であった草戸千軒町遺跡など歴史的遺物が市内に点在し、対外交流の途絶した江戸時代にも、朝鮮通信使が立ち寄る港として海外との窓口が途絶えることはありませんでした。

一方、このような多様な歴史的・文化的伝統の中で生まれた琴、下駄、備後絣などの伝統産業の上に、現在では、鉄鋼などの近代産業が根付き、山陽自動車道や西瀬戸自動車道（しまなみ海道）、山陽新幹線などの交通網、福山港などアジアに開かれた港湾施設を備えた交通、物流の利便に富んだ地域として、今日も重要な位置を占める瀬戸内の拠点都市として発展しています。

また、福山市は、ばらを市民共通のシンボルとし、ばらのまちづくりに取り組んでいます。戦争で荒廃したまちの空き地に市民がばらを持ち寄り、植えたことが始まりです。現在では、「二〇〇万本のばらのまち」をスローガンに、福山市の一大イベントであ

る「福山ばら祭」に発展し、市民と行政、また、国内外問わず多くの人々が一体となって創り上げる協働のまちづくりへとつながっています。

福山市の親善・友好都市交流

福山市の海外都市との交流は、一九七六年のハミルトン市（カナダ・オンタリオ州）との提携を皮切りに、一九七九年には浦項市（韓国・慶尚北道）、翌一九八〇年にはタクロバン市（フィリピン・レイテ州）と続き、これらの親善・友好都市とは、相互訪問や青少年のホームステイなど市民レベルでの交流を深め、友好関係を築いています。

現在では特に浦項市との交流が活発で、浦項市の小学生と福山市の小学生によるサッカー交流をはじめとして、市内の団体による大学生のホームステイ受入れなどさまざまな交流が行われています。また、今年五月の「福山ばら祭」では、駐広島韓国総領事夫妻および浦項市長をはじめ



↑朝鮮通信使400周年記念パレード

とした訪問団を迎え、朝鮮通信使四〇〇周年記念行列に福山市民と共に参加するなど、お互いに友好関係を深めています。

地域の国際化の推進

二〇〇七年五月三日現在、四七カ国六二六六人の外国人市民が福山市に在住しており、市の人口の約一・三%を占めています。国籍別では中国籍が二八三六六人、韓国・朝鮮籍が一〇六四人、ブラジル籍が七九三人、フィリピン籍が七六一人となっており、研修生や日系人の就労者、日本人と結婚して福山に暮らす人などさまざまです。

外国人市民の数は今後ますます増加することが予想され、多文化共生のまちづくりの視点からお互いの文化を認め合い、尊重していく風土を醸成していくことが求められています。

福山市では、一九九〇年にふくやま国際交流協会を設立し、今年で設立二七年目を迎えます。協会では、福山に暮らす外国籍の人や海外とゆかりのある人との市民レベルの草の根の交流を推進することにより、地域の国際化を図ることを目標にしています。



↑ふくやま国際交流協会「インターナショナル秋祭り2006」

主な事業内容として、まず、毎月一〜二回の外国人講師による国際料理教室や異文化理解講座、また七夕やハロウィン、クリスマスなどの交流会の開催のほか、英会話・中国語会話サロンなどの語学講座など親しみを持てるイベントを通じて国際理解を深める交流事業を実施しています。

次に、外国人への日本語学習支援や通訳、ホームステイ・ホームビジットの受入れなどのボランティア登録制度を運営しています。特に日本語学習支援のボランティアでは、日本語を学びたい外国人と協会ボランティアをペアリングし、一対一による学習を行っており、現在、約六〇組が活動しています。

また、協会では、外国人が日常生活を快適に安心して過ごすことができるよう、行政情報などを多言語で発信しています。外国語版ニューズレター（英語・中国語）を発行し、市発行のポルトガル語版とともに必要な人に配布しているほか、外国人向けの生活ガイドとして、外国語リビングガイドブック（ポルトガル語・中国語・英語）を発行しています。しかし、これらの情報が外国人住民にどの程度届いているか把握できておらず、周知方法や配布方法などに課題があると考えています。

そのほか、留学生の経済的負担を軽減し、勉学に専念できる環境づくりの手助けとなるよう、国民健康保険税の助成事業の実施、外国語対応医療機関の紹介も行っています。外国人が福山市で安心・安全に暮らすこ

とができるよう支援するとともに、国際交流の場を提供し、市民の国際理解を深める取組みを推進しています。

多文化共生のまちづくりに向けて

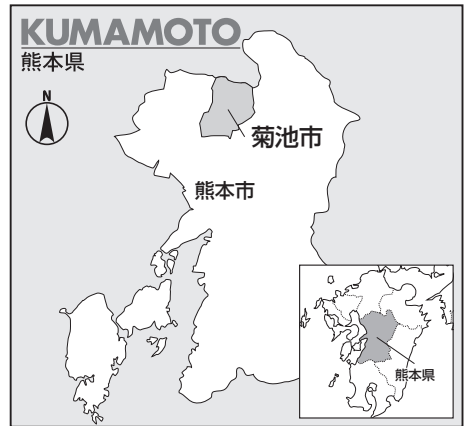
福山市では一九九一年に外国人相談窓口を開設し、現在はポルトガル語・スペイン語および中国語で在住外国人の生活上の相談や各種手続きの相談を行っています。ポルトガル語・スペイン語は相談員三人で週五日、また中国語は相談員一人、週二日で相談に対応しており、市内だけでなく、近隣自治体からも相談が殺到している状況です。相談件数は年々増加し、二〇〇六年度はポルトガル語・スペイン語四七二件、中国語八三〇件となりました。このような状況の中、相談内容を行政に反映させていくこと、外国人市民への効果的な情報提供、日本語支援など諸課題があります。こうした課題に取り組んでいくとともに、お互いの文化を認め合って暮らすことができる人権尊重のまちづくりを推進していくことが大切であると考えています。

福山市においては、NPOやNGO、ボランティア団体などにより、市民レベルでさまざまな活動が行われています。こうした団体と積極的に情報交換や交流を図り、多くの市民の理解と共感を深めていくことで、福山市の多文化共生のまちづくりを推進していきたいと考えています。

熊本県

菊池市

海を越えて～ 菊池の国際交流物語



菊池市国際交流課

市の概要

菊池市は、二〇〇五年三月二日に菊池市、菊池郡七城町、旭志村、泗水町が合併してできた「豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまち」です。熊本県の北東部に位置し、阿蘇の外輪山を源とする菊池川・合志川の恵みによる緑豊かな自然とともに、古い歴史、伝統、文化を誇る都市です。

古来、市名に名を残す菊池一族の統治による九州の政治・文化の中心地として栄え、政治・教育・文化面において大きく影響を与えており、現在でも多くの遺跡が各地に残っています。

菊池渓谷や旅情豊かな菊池温泉のほか、各地に桜、コスモス、ホタルなどの四季を彩る自然や菊池一族の歴史と伝統を物語る観光スポット、レジャー施設を有しており、県内外から多くの観光客を集めています。近年は、国際交流の推進による外国人観光客、修学旅行生等の誘客にも努めてきました。

友好都市交流のあゆみ

合併した新菊池市として、あらためて旧泗水町との姉妹都市である韓国・金堤市、友好都市の中国・泗水県、旧菊池市と友好交流都市の韓国・清原郡と友好都市調印を締結しました。韓国・金堤市は、ソウルから北へ車で二時間半ほど行った田園地帯で、秋には韓国でも有数の大祭典「金堤市地平線祭り」が開催され、五穀豊穡を願い、各

地方の伝統芸能が披露されます。

この祭りに菊池市からも毎年文化交流団が参加し、日舞や神楽を披露してきました。



↑金堤市地平線まつり 菊池市赤星神楽

中国・泗水県は、中国国土の北東部に位置し、県内には大小合わせて五六〇余りの川があり多くの水源に恵まれています。旧泗水町が一九八六年に町名由来の調査団を派遣したことから交流が始まり、儒教の祖孔子の生誕地である泗水県と共同で「孔子公園」を建築しました。日中文化・スポーツ交流年である今年には、ビジットジャパンキャンペーンの一環により当市で青少年の卓球交流を行います。

韓国・清原郡は、韓国国土のほぼ中央部に位置し、ソウルから車で約二時間くらいの所です。旧菊池市が韓国との友好都市交流を望んだところ、韓国観光公社より菊池市と地理的、産的に類似している清原郡の紹介を受けたことから交流が始まりました。韓国の金堤市、清原郡とは毎年交互に中学生のホームステイ派遣をしています。また、同様に菊池市でもホームステイの受入れをし、相互交流を行っています。

ノービザ運動を経て 交流拡大

二〇〇一年から、全国でいち早く政府に韓国人観光客のノービザ化を提唱してきました。

当初は、全国から不法滞在や、犯罪増加等を懸念した抗議メールなど反響がとてども多かったものの、継続してノービザ運動を推進していききました。また、韓国人嘱託職員を採用し、市内旅館等でハングル語講座を実施したり、ハングル語の標記やパンフレットを作成するなど交流拡大へ向けて準備を進めていきました。韓国ノービザ特区には認められませんでしたが、修学旅行生のノービザ、九〇日の短期査証免除と着実にステップを踏み、二〇〇六年三月には韓国人の査証恒久免除が実現されました。そのようなノービザ運動を経て、日韓中学生ホームステイ交流や文化交流、ソウルや釜山の国際観光展へ出席して観光客誘致や、韓国の旅行会社と交流しインバウンドに取り組んできました。また、近くて遠い国、お隣韓国をもっと知っても



↑中学生の韓国ホームステイ体験

らおう、身近に感じてもらおうと、本市で韓国映画祭を開催するなど市民の理解を得ることに努めてきました。そのようなことが実を結び、二〇〇七年二月には、日韓友好に貢献したとして、福村三男菊池市長が韓国大統領から修交勲章「崇禮章」を授章しました。統計上から見ても、二〇〇一年には三〇〇人余りだった韓国人観光客が、二〇〇六年には八〇〇〇人に達しています。

観光客のみならず、福祉団体、大学や、農業団体などの研修、文化、音楽、スポーツの交流など多岐にわたって推進しています。また、ソウルの大学から日本語観光通訳科の学生をインターンシップで受け入れたり、国際協力への支援も行っています。

また、菊池一族の末裔である、セッコ・クロソウスキー・ド・ローラ（日本名：出田節子）さんは、二〇世紀を代表するフランス具象絵画の巨匠バルテュス氏の夫人で、バルテュス亡き後の現在もスイスで絵画創作活動をしながら、ユネスコの平和芸術家としても世界で活躍されています。セッコさんは、二〇〇四年に二〇年ぶりに本市に里帰りされ、バルテュスの自画像を寄贈されたり、学校で講演をしていただきました。その後もセッコさん宅へ市民交流団が訪問したり、セッコさん主催のスイス・ロシニエール村での猫まつり展へ本市中学生が作品を出展するなど交流が続いています。

このように広がる国際交流を市民と行政が一体となって、国際理解の増進、地域経済

の活性化にもつなげていくために、二〇〇六年三月「菊池国際交流協会」を設立しました。活動内容はまだ手探りの段階ですが、韓国映画祭への



↑韓国映画祭 韓服を着たインターンシップ生

協力や、市在住の外国人を集めての交流会の実施など、これから一歩一歩活動を増やしていきたいながら、発展させていくことが重要だと考えています。

おわりに

菊池市は、良質の天然温泉、四季折々美しい菊池渓谷、自然溢れるゴルフ場など、観光資源豊富なまちです。一度来たらまた来たくするような観光客誘致を進めていきます。

また、国際化、グローバル化が急速に進む中、菊池市の国際交流といっても、まだまだ市民にとっては身近に感じられない、直接関係しないから知らないという声もあります。地域に密着した国際交流への取組みを通して、異文化の理解を深め、違いを認めて助け合って共に生きる平和で開かれたまちづくりを目指していきたいと思えます。